

数学

京都大学[理系] (前期)

<全体分析>

試験時間	150分	解答問題数	6題
------	------	-------	----

解答形式
記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)
難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

図形、整数、確率、微積等、頻出の分野から出題された。
小問が昨年と同様、3題あった。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

思考力、論証力をふまえた問題が例年のように出題されている。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	図形と方程式 微分法	数学II	2つの放物線が接するときの接点の動く範囲を求める	標準
2	整数	数学A	3で割った余りで分類する	標準
3	三角比 三角関数	数学I 数学II	円に内接する四角形の4辺の積の最大値を求める	標準 標準
4	確率 複素数と方程式 数列	数学A 数学II 数学B	漸化式を用いて確率を求める	標準
5	微分法 積分法	数学III	弧長を立式し、極限を求める	標準
6	空間図形	数学A	四面体を切ってできる立体の体積の性質	難

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

小問のない問題が頻出なので、普段から誘導のない問題を意識して演習に取り組もう。また、問題を正確に読みとる力、解決への道筋を自分で考える力、考えたことを答案にうまくまとめ上げる力なども要求されているので、単に問題を解くだけではなく、これらのことを念頭に学習しよう。